

(十) 太北木材株式会社に 社名変更

マ指令部は、太平木材(株)に解散

を命じたが、夫々の地区に於て独立した第二会社を設立して、企業を行う事は許可された。私の店所は、数年前に下請会社として富山木材(株)を設立していたので之を母体として、社名変更後、職員を補充して新第二会社として許可を得た。名称・太北木材株式会社、社名変更登記・昭和二十四年六月十一日、代表取締役小池善三郎、取締役小池英作・田島三郎・山川常次郎・針原啓介・監査役石田健政・野上資良であった。

大変お世話になりましたが、太北木材は新会社だから今後の営業実績を得た上で」と、体裁良く断られた。勿論、北銀にも断られ全く途方に暮れていた。

暑い夏も過ぎ、初秋の頃、私も万策尽き上京し、閉鎖機関・太平木材の管財人岩坪祐至氏に会い、「旧親会社の三百万円は必ず返済するから、暫く猶予願いたい」と申し出た。岩坪管財人は、「返済してサッパリした気持で発足する」と言う君の気持は良く判るが、収支さえ明確であれば必ずしも直ちに返済しなくとも良い」と軽く了承を得た。岩坪氏は、

り次ぐ様依頼した。中田頭取は丁寧に私を招き入れ「岩坪さんをご利用してご存知ですか」と尋ねられ、更に言葉が続け「岩坪さんは、私が学校を卒業して、日銀に入社した時、当時の総務局長で、随分と可愛がっていただいた私の恩人です。処で、あなたの太北木材とどういう関係ですか」と質問を受けた。私は、木材統制時代の日本社から太平木材への移管、そして、GHQの指令で閉鎖機関管財人として大蔵省から派遣された方ですと、大略を説明した。中田頭取は、

すから、何とか肩代わりしてあげなさい」と静かに申し渡された。吉山氏は当社取締役針原啓介氏の友人、山田氏は私の兄・良一の同級生で、私の事情を良く知っていたので、頭取からのお声掛かりで万事OKであった。

く会社の再建以外何も無かった。あれから三十年間、当面した種々の問題については、当時としてベストを尽くして来た積もりであるが、今年私は六十八才今にして考えると、まだまだ未熟な点が多々あったと思っている。

私は、東京の岩坪管財人の元へ早速電話でお礼を申し上げると、「君も承知の通り、僕は君に金を貸してあげなさいと、中田君には言わないよ。単に頭取就任おめでとうと、伝言を君にお願いだだけです。中田君が気をきかせたのでしょ

今年(昭和五十六年)のお盆休みは三日間であった。私は丁度原稿執筆中、この項を書いている最中で、盆休みを利用して汗を流しながら書き綴っていた。善英は三日間、呉羽カントリーでゴルフ三昧であった。社会的(青年会議所)には上位クラスに属し、同業者間(木材青年会)では指導者であり、教育関係(P.T.A)では最高峰である。全く責任の重い地位である。若しこれが大家族制度の父の時代なら、名誉職を得る毎に家族会議が連続して開かれた事であろうと思う。私と善英、偶然同年令代にぶつかったが、時勢が変わったのか、会社の基礎が安定したのか、当時と現在では、社長職として雲泥の差である。全く平和な日本であり、平和な社会であり、平和な家庭環境である。善英は「我若し当時の私の立場であったならば、より以上に再建に努力したであろう。しかし現実には、社長・副社長(弟英作)健在であり、私

の出身幕では無い」と主張するであろう。尤もと思つてやりたいが果たしてどうか、理として通じるかどうか疑問である。

いっしょに暮らしたものがたり 善三郎翁記

母体である富山木材(株)は、元の親会社であった太平木材(株)富山出張所に、工場入手代金として三百万円の借入金が残っていた。私は、銀行等で肩代わりして親会社に返済して、サッパリした気持で発足したかったが、どうにも金の工面が出来なかった。

岩坪管財人は、直ちに話題を替えて、「富山の北陸銀行の頭取に中田勇吉君が就任したそうですね。帰省したら、中田君に、頭取就任おめでとうと伝えて下さい。」と岩坪氏の名刺に「祝頭取中田勇吉君」と書いて渡された。私は八方塞がり、落ち込んでいた時であり、面倒くさかったが、頼まれたから致し方無く、北銀頭取室に行き、例の名刺と言伝えを中田頭取に取

秘書に「吉山君(審査担当常務)と山田君(審査担当・後の北銀会長)を呼びなさい」と伝えた。この二人が頭取室に来ると、頭取は岩坪氏の名刺を差出し「この方は私の恩人です。小池氏はご本人は初めてですが、小池氏の父は、昔、富山別院、金沢別院等建立の櫓材を納入した昔からの富山の古い材木屋さんで、私もお父さんをよく存じています。戦争中の実績は、個人商店では無かったので判りませんが、今般岩坪さんが管財人になつている元親会社へ返済するので

事であった。その裏には「小池君へ金を貸してあげなさい」と言わなくても、通じる様な本場の師弟・友人でなければ、岩坪氏のメガネに合わない人物である。私にも相通じる様な友人を持ちなさいと言う暗示であった様に思える。

私は当時三十八才であった。私の長男善英も今年三十八才、偶然にも同年令である。私以下全社員再生の意気に燃えており、子供の学校関係は妻に任せ、私自身社会的に貢献・同業者間の世話・名誉職的事務は一切私の頭の中には無

全国組織の太平木材(株)時代は、本店指示により富士銀行富山支店と取り引きしていた。地元の北銀から再三取引方依頼があつたが、私は太平の社員だから本店が指示する富士以外とは取引きしない」と主張していたので、北銀には全然実績が無かった。勿論、新・太北木材になって、最初に富士に取引き交渉したら、「太平木材時代は

致し方無く、北銀頭取室に行き、例の名刺と言伝えを中田頭取に取

致し方無く、北銀頭取室に行き、例の名刺と言伝えを中田頭取に取

致し方無く、北銀頭取室に行き、例の名刺と言伝えを中田頭取に取

致し方無く、北銀頭取室に行き、例の名刺と言伝えを中田頭取に取